釜の沢左俣

２００８年　６月７～８日

Ｌ斉藤　金井　天野（記）

今回のメンバーは精力的に山行をこなす期待の新人斉藤をリーダーに釜の沢には何度も入っているベテラン金井が食当、沢の会にいながらフリーばかりやっている天野が記録というパーテェーとなった。

道の駅みとみでささやかな入山祝いをし、翌朝出発、沢沿いの道を歩くこと約 2 時間、山の神を過ぎて沢に下りる。ここで足ごしらえをし、さて遡行開始。どうも水量が多いらしい。さながら渡渉トレでもしているようだ。何度も左岸右岸と渡りながら進む。乙女の滝、東のナメ、西のナメと途中何度か足を止める。

東のナメ沢は最近の崩落により幅が広がってしまったらしい

釜の沢に入る手前にちょっといやらしい所がありここを左岸から右岸に渡らなければならない。が、流れが強く渡渉できそうなところがない。目をつけたとろは一ヶ所だけ狭い部分。狭い分流れは強く少し滝状になっている。体を放り出せば向こうの岩に手が届きあとは跳び箱に飛び乗るか、這いずるか、そんな要領でいけそうなところである。ためしに天野がトライしてみる。まずはなるべく岩に近づくために左岸の傾斜をそろそろと某社ゴム底沢靴で下る。これがひやひやもので微妙な傾斜と靴のフリクションを確かめるように一歩一歩進む。滑れば結構派手なウォータースライダーだ。水際まで降り「せーの」で向こう岸の岩に手をつく。あとは思惑通り成功。二番手ベテラン金井。高級羊毛フェルト底の威力で水際まで降りる。そして見事に手は届いたものの体が完全に伸びきってしまい身動きがとれなくなってしまった。自分の身長を考慮しなかったことを後悔してももう遅い。天野が岩にしがみついている手を押さえ、金井、足を水流の中へ。流されそうになるも必死に水中のスタンスを拾い、渡りきる。さあラスト斉藤。身長からいって手が届けば問題ない。靴底は羊毛が磨り減ってしまい化繊に張り替えたという物。そろそろと足を踏み出す、と、ツルーンと一気に滑り流れに身を任す。かなり豪快に流される。2 回目もビデオを見るごとく同じように滑る。今度は流れの中で肩を打ったようでしばらく休む。心配したが、なんとか行動開始。さてどうしたものか。ザックを先に送ってから空身でトライしてみようとザックをお助け紐に付けて放り投げる。しかし、これが水を吸ったザックの重さと足場

の悪さからこちらまで届かず流れにドボン。凄まじい力で引かれ、流されようとするザック。それを止めるのにお助け紐が指に食い込み痛いのなんの。必死の共同作業で何とか引き上げる。斉藤も3回目は無事渡りここで大休止。金井の指は変形し、天野はしばらく指の感覚無し、斉藤の携帯は使えなくなる。いや一水の流れは凄い。それにしてもあんなにがんばって物を離さなかったのは生まれて初めて。クライミングだったらもうとっくに「テンション」なんて言って手を離しているだろう。今度からはこれくらい頑張ってみよう。（と思ったが今はもう元に戻ってしまったのが情けない。）そんなこんなで釜の沢に入る前に意外な核心をこなしてしまった。

ここを渡るのにひと苦労

魚止めの滝、千畳ナメ、両門の滝とこの沢のハイライトを堪能し広河原で幕場探しへ。天気予報も良いほうにはずれ、焚き火とシェフ金井の料理を囲み楽しい沢の夜はふけていった。

両門の滝

2日目、進むにしたがい倒木や左右からの崩落跡が目に付く。遡行も木をまたいだり、崩れた土と岩の上を歩いたりすることが多くなりあまり気持ちがよくない。やがて雪渓が出てきて今年の雪の多さを感じさせる。ガレてきてそろそろ水が無くなるのかなと思うとまたナメや小滝が現れるのがこの沢の面白いところで最後まで飽きさせない。やがて水源となり遡行終了。少し歩くと甲武信小屋へ。せっかくなので天野は初めての甲武信ヶ岳へ上がり景色を堪能。小屋で皆と合流し駐車場へ。斉藤リーダー、ご苦労様でした。

1日目
西沢渓谷駐車場７：３０～９：３０山ノ神９：５５～１３：００千畳ナメ～１４：３０両門の滝～１６：３０広河原幕場
2日目
幕場７：００～９：４０ポンプ小屋～１０：００甲武信小屋１２：３０～１６：００西沢渓谷駐車場